

お祝いありがとうございました



舞台好き ファイナンシャル ランナーの 楽屋裏通信

内診台を置かない婦人科の病院ってあり？

今回は新しくクリニックを開いたダンナの黒歴史の一部をひも解いてお伝えしてきました(笑)

順調に開業したと思いきや、世間一般に言われる順調な人生でもなく、山あり谷ありの人生。その中でもルーツをたどると、「自分の好きで得意でひとに喜ばれること」をお父さんに認めてもらったのが、医者をやっている原動力にもなっているのだろうか、そんなインタビューでした。

産婦人科の医師として活躍する前からの出来事をのせましたが、今回はクリニックにまつわる話、婦人科についてのお話です。

=====

「あれ？もともと産婦人科の先生ですよね？」



ああ、そうですね爆笑。
もちろんそうです。

「そもそも産婦人科医になったきっかけは？」

それまでは精神科医か心療内科医になろうかと思って、そちらの勉強もしていたのだけれど、長男出産のときにすごい産婦人科の先生に出会ってね。

「お産の時の赤ちゃんとお母さんのかかわりが、その後の赤ちゃんの人生にすごく影響する」ということを念頭に掲げて、それを現場でかなりきっちりやっておられた先生がいた。



どうやったら賢い子に育つのか、出産時の環境がお母さんの子育てにどう良い影響を及ぼ